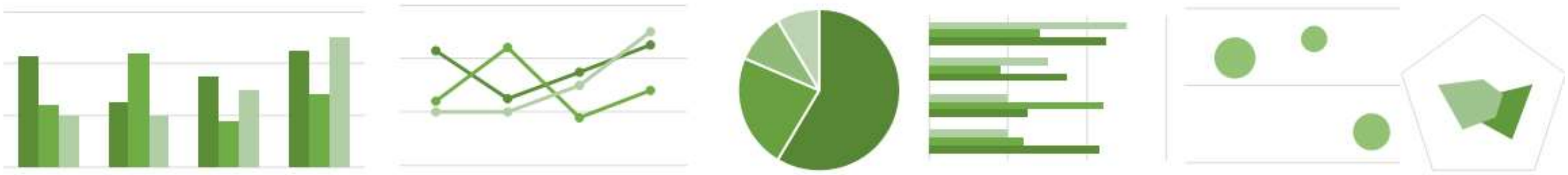
資料３

令和5年度　第1回データ利活用WG

これまでのWG検討結果と
令和５年度Society5.0推進会議での意見



令和4年度までのWG検討結果

デジタル社会の構築に向けてはデータの活用が必要不可欠であるが、取組が進んでいない状況を確認しつつ、
有効に活用できる環境を構築するため、課題と解決方策について検討

データ提供者の課題

- 活用できるデータの作り方を理解していない
  →PDFやセル結合されたExcelでの公開
- **個別最適**が進み、データを職場で活用することができていない。
- データを**職員自ら利用する**ようにしなれば、データ公開も進まない。
- ニーズが無いため、データがどう使われるかわからない。

データ利用者の課題

- **データが分散保存されている**ため、どこにデータがあるかわかりづらく、使いづらい。
- 公開されている**データの多くがPDFやセル結合されたExcel**で活用できる形式になっていない。
- 活用できるデータが無いため、ニーズが生まれない

データ連携基盤の整備

利用者がデータを使いやすくすることで、データ活用のニーズを促進する

データ提供者が、使いやすいデータを理解し、活用できるデータが増える

データを地図やグラフなどで可視化し、データの活用方法を理解する

データ利活用人材の育成

活用できるデータを作れる知識を全職員が持てるようにする

データを業務で活用できるように思考の切り替えを行う（個別最適→全体最適）

令和5年度第1回親会議での意見

〈データ利活用について〉

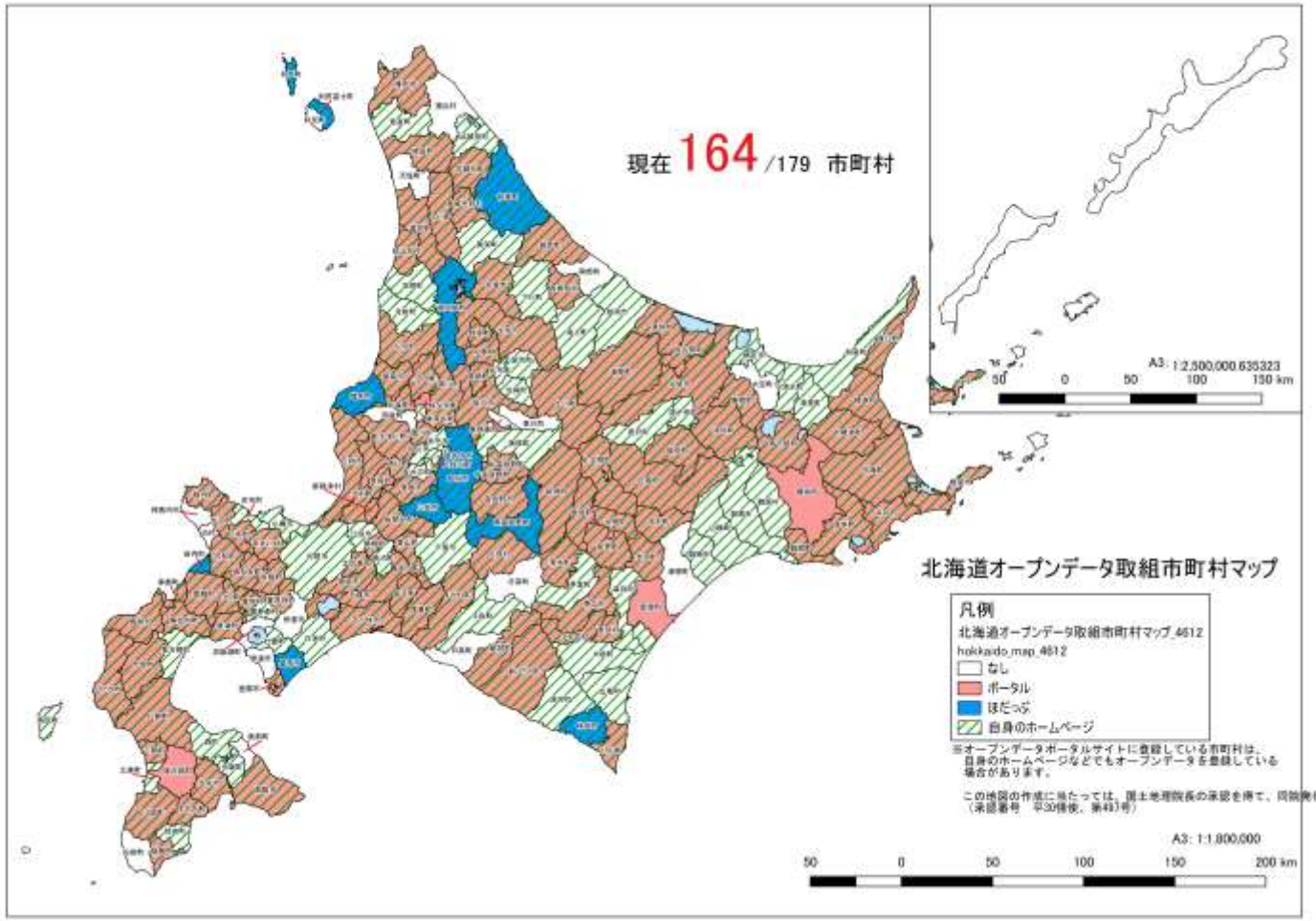
・データ利活用WGでは行政がつくるオープンデータの重要性やデータ利活用のための人材育成、データの作成方法や活用方法、そしてデータ利活用のメリットなどについて議論した。ただ、中々メリットについて具体的に示せなかったことは反省。

・しかし、最近はチャットGPTなどのAI技術の登場により、データ分析が容易になり、データをAIに命令して実際に分析してもらうことが現実的になってきた。

・オープンデータを活用することで、行政の少ないリソースを効率的に活用し、意思決定を進めることが可能になる。これらの技術革新を踏まえて、データとAIを活用してDXを推進することが重要。

市町村のオープンデータの取組を推進

市町村のオープンデータの推進を支援し、
オープンデータ取組開始市町村が**急増中**！



2023年1月現在

114 市町村　実施率64％

2023年11月現在

164 市町村　**実施率92％**